

「真価を問う」

先月20日(土)の運動会では、340名を越えるご家庭、地域の皆様に参観していただきました。久しぶりに来場人数の制限をなくして実施できたこと、それによって多くの皆様に子供たちの躍動する姿を見ていただいたこと、改めて学校が保護者や地域の皆さまに支えられていると再認識することができました。本当にありがとうございました。

また、今回の運動会は、生徒の主体性を前面に出して企画・運営をしました。参観された方から、「生徒の主体性がよく感じられます。」と言っていただけた場面もあり、目的に迫ることができて嬉しく思いました。一方で、課題や改善点も見られました。次年度に向けて、課題を解決していけるように組織的に取り組み、学校行事を通して「目指す生徒像および目指す学校像」の達成を目指していきたいと思えます。

さて、表題の「真価を問う」ですが、これは先月末から今月上旬に実施された3学年の修学旅行を通して感じたことをお伝えしたいと思います。ご存じの通り、今回の修学旅行は最終日に台風および大雨の影響により、新幹線が運休し帰宅できないという状況になりました。私をはじめ職員の誰もが経験したことのない事態です。詳細は省略しますが、長時間に及ぶ車内での留め置き、なかなか届かない情報、限られた飲食料、深夜になった延泊地への移動等、どれをとっても生徒たちには過酷な状況です。

そのような状況の中でも、生徒たちは不平不満を一切言わず、整然と行動していました。その姿は、あまりに立派で非常に感心しました。「真価が問われる」とは、「本当の価値を判断される状況になること」だそうです。では、その状況とはどんな状況なのでしょう。私は、「想像もできない状況」「自分の力ではどうすることもできない状況」なのではないかと3年生の姿を見て思ったのです。

まさに3年生一人一人が、想像もしていなかった、自分の力ではどうしようもない状況の中で、それを受け入れ、その時その場面でできることだけを、誠実に実行していました。

私は、4日目の宿舎を発つときに、全員に話せる最後の場面だと思い、次の話をしました。(一部分です。)
「今回の状況は、誰もが経験することではない、大変な状況でした。『大変』と言葉でいうのは簡単ですが、その大変さの本当の意味を知っているのは、いまこの場にいる皆さんと私たちだけです。そして、その大変な状況の中で、どのような行動をとったのか知っているのは、みなさんの姿を目に焼き付けた私たちと皆さん自身とそしてこの仲間です。私は、皆さんのことを本当に頼もしく誇りに思えます。今日家に帰ったら、ご家族にこの大変な状況の話をすると思えますが、どうかそれ以上にこの状況に対して、不平不満を言わずに、頑張り抜いた自分自身のことをたくさん話してください。」と言いました。

そして、振替休業日にあたる5日(月)の朝礼では、1,2年生に次の話をしました。(一部分です。)
「1,2年生の皆さん、3年生はとても立派でした。奈良や京都でたくさんの中学生を見ましたが、その中でも立派でした。とても素敵でした。どんなところか。簡単に言うと、校外に出ても蓮中生としての自覚を忘れず、自分の役割ややるべきことをしっかりと果たしていたということです。それは想像もしていなかった事態に遭遇した時に、最も力を発揮していました。1,2年生の皆さん、立派で誇れる3年生がいる学校は、素晴らしい中学校になる土台ができています。次は、1,2年生皆さんの番です。その土台の上に、どのような活動を築き上げていくのか。皆さんの活躍を楽しみにしています。期待しています。」

これから、進路決定を迎える3年生は、まさに「真価が問われる」場面の連続だと思えます。1,2年生にとっても、学校生活の中心的存在として、様々な場面で「真価が問われる」と思えます。その場面において、生徒たちが失敗を恐れず、自分で考え、判断し、力を十分に発揮できるように、私たちは一丸となって支援していきたいと思っています。今後も保護者、地域の皆様には、ご理解とご協力をよろしく願います。